

新聞 NEWS

東莞今年初のデング熱輸入患者 大嶺山蚊 3 か所で高い『蚊密度』

東莞時間網 news.timedg.com 2016-04-12 09:15:00 来源: 東莞時間網

東莞時間網訊

ブーン・ブーン・ブン…… 天気が暖かになり、雨水が増え、どんどん蚊が『悪さ』を働き始めた。今時点、蚊が媒介する伝染病のデング熱は、ジカ熱や黄熱よりも多くなっている。

省疾病管理センター (CDC) は、昨日、**04 月 10 日**までに、広東省全省 (香港マカオ台湾及び外積を含む) ではデング熱輸入患者 **34 名**、ジカ熱輸入患者 **11 名**が報告されているが、東莞は今年デング熱輸入患者が見つかったが、ジカ熱及び当地でのデング熱感染症例は見つかっていない。

市 CDC は、気温が温暖になりつつあり、蚊の密度が上昇するので、輸入性のジカ熱やデング熱患者が当地で発生するリスクが徐々に増大している。

昨日、省 CDC は、新たにシマカの密度観測結果を発表したが、東莞では、**3 か所**のモニタリングスポット (全て大嶺山) で高い蚊密度状態を示し、デング熱の伝播リスクが高いとされた。

本年初の輸入性デング熱患者

デング熱とジカ熱のウィルスは、いずれもシマカに刺されることで伝播する急性感染症で、昨日、記者は、市 CDC から得た情報では、**04 月 10 日**までに、本年度の東莞市においてはジカ熱の症例は出ていず、また、当地でデング熱に感染したという報告はないものの、輸入性デング熱患者 **1 名**が報告されているが、患者はマレーシア籍の男性で、マレーシアで感染していたという。

感染が見つかった後、市 CDC が高度にこれを重視し、市 CDC が直ちに関連医療機構や愛衛 (宮本注: 愛國衛生運動委員会)、社区 (マンション等の住人達のコミュニティ等) 等と合同で、患者の隔離治療を行うとともに、詳細な疫学調査や環境衛生整備、蚊の撲滅、蚊の発生源一掃や一連の予防管理措置を採り、有効に感染制御を行ったため、発症例ゼロが続いており、関連地区のプレート指数は蚊媒介伝染病の予防管理基準に達し、既に流行は沈静化している。

現時点の蚊密度は予防管理要求に符合

広東省における最近のシマカ密度観測結果によれば、**3 前半**に、全省の多くの観測スポットでの蚊密度は予防管理基準に合致しており、蚊の密度は比較的低い、一部の地区で高密度の蚊が見つかった。高密度を記録した観測点は、(**1.4%**を占める) **13 か所**で、中密度を記録したのは (**4.9%**を占める) **47 か所**あった。

記者は、高密度観測点 **13 か所**中、東莞が **3 か所**を占めているのを見つけたが、夫々東莞大嶺山龍山街 **40 号**、大嶺山龍山街三巷 **37 号**、大嶺山龍山街四巷 **30 号**にある観測地点がそれで、全てプレート指数が **100**に達していた。

昨日、市 CDC は、蚊の撲滅作戦により、現在我が市にある全市 **33** の鎮 (街) で展開された蚊密度の観測結果は、これまでの産卵指数 (中国語『誘蛋指数』の日本語は見出せませんでした) とプレート指数はいずれも **≤5** であり、蚊媒介伝染病の予防管理要求に符合しており、蚊密度が基本的に昨年同期と同レベルにあると発表した。

デング熱とジカ熱予防管理の五大措置

また、東莞市 CDC は、気温が上昇し、降水量が増加するにつれ、蚊の活動が活発化し、それに加えて、東莞市住民には、水生植物を育てる習慣があり、これが蚊の繁殖に勢いをつけるため、東莞市のデング熱やジカのウィルス感染症の予防管理へのプレッシャーが高まるのだと注意喚起している。

また、省 CDC は、輸入性ジカ熱や、デング熱患者が当地で患者を発生させるリスクも高まるとしている。

市 CDC は、現時点、東莞は積極的にデング熱とジカウィルスの予防管理工作に注力しているが、一に検疫検査や旅行部門等との協同とコミュニケーションの強化; 続いて、二)、ジカウィルス実験室の検査に関連した技術と方法を打ち立てることであり、実験室の技術と試薬準備; 三) 患者のローラー調査とモニタリングで、早期発見・早期診断・早期治療・早期隔離・早期調査・早期処置の実施の強化; 四) 蚊密度のモニタリング強化で、観測範囲は既に全市の **33 鎮街** (園区) をカバーしているが、逐次この増加を図る;

五) 専門スタッフの技術訓練の展開となると語った。

現時点で、既にわが市では、各医療衛生機構の公衆衛生医師に対して **200** 人回以上のデング熱及びジカウィルスの予防管理技術トレーニングを行なっている；この他にも、デング熱及びジカウィルスの予防治療知識の宣伝を強化しており、リスク評価を展開し、デング熱とジカウィルスに関するリスク評価を四季ごとに行なっているが、今月からは、特別にそのリスク評価を毎月実施し、全市の予防管理工作の展開を指導している。

市 CDC の専門家は、『溜まり水のない所には蚊がいない、蚊のいないところではデングやジカウィルス感染はない、市民もまたしっかりと溜まり水と防蚊対策の行動をとらねばならない』と語っている。

溜まり水の一掃

デング熱を媒介するシマカは、きれいで少量の水に産卵することを好み、約 **10~12** 日後には、成虫となって水から飛び立つことができるようになり、人々は必ず自宅や自宅前後、テラスや門の掃除をし、鉢の移し替え、缶にたまった水を捨て、定期的に水生植物の水を取り替え洗浄し、蚊の発生場所になるところはきれいにせねばならない。

ドアや窓への網戸の取り付け

家においては、ドアや門にはネットを取り付け、蚊の侵入を阻止すること、これがもっとも簡単容易な物理的防護方法となる。

屋外では淡色長袖長ズボンを

週末や休みの際に戸外や近郊に遊びに行くとき或いは、自宅近くで散歩をする際には、淡い色で長袖長ズボンを着用し、皮膚の暴露面をへらすことで、蚊に刺されることを防げる。家においては、ドアや門にはネットを取り付け、蚊の侵入を阻止すること、これがもっとも簡単容易な物理的防護方法となる。皮膚が露出部分には、蚊を追い払う成分 (**DEET**) の含まれている昆虫忌避剤 (虫よけ剤です!) を塗布するように注意すること。(昆虫忌避剤の **DEET** は、副作用もあるようですが、**Wikipedia** など一度調べてみてください。ディートの成分量で効果/持続時間が決まるのですが、*日本の製品は薬事法で最大 **12%** と決められています。但し使用に当たっては、肌荒れなどに注意が必要で、長期間、恒常的に用いると体に良くないかもということもネット上で見つけられますが、海外で購入する製品では、**20~50%** のものしかないことも有り得ますので、高濃度の **DEET** 剤が長時間の使用に耐え得る半面、痙攣や精神障害が出てしまった事例があるということも頭に入れておく必要はあるでしょう。勿論子供による飲用を防ぐようにしなければなりませんね。)

以下の蚊が媒介する疾病が現在流行っており、市民には留意が必要

デング熱：

当地での患者発生リスク高まる

デング熱は毎年夏秋にかけて比較的常見されるもので、東莞では皆が知るものだ。東莞ではこの数年、一部の鎮街で現地感染症例が見つかっている。

デング熱はシマカ (俗称『花斑蚊』:『花斑』は直訳するとただら或いはぶちの蚊、という意味ですが、ここでは通常よく言われる『やぶ蚊』としておきます) に刺されることで感染する昆虫媒介感染症の一種で、主な症状としては、発熱や激しい頭痛、眼窩部痛 (目の奥の痛み)、全身の筋肉痛と関節痛、皮疹などがあるが、一般には、発症患者は合併症を起こすことなく予後は良好で、重症化や死亡する患者は稀だが、重症患者にはショックや出血が高じて死に至ることもある。

ジカ熱：

輸入患者により当地の患者発生リスク高まる

ジカウィルスは、今年初めてわが省に持ち込まれ、**2** 月、**3** 月に多くの輸入性患者が報告されていたが、**4** 月 **1** 日に **2** 人の輸入性患者が見つかり、**4** 月 **10** 日には、新たに **1** 名の輸入性患者が通報されている。(これらについての記事が見つかりましたので別途アップします)

ジカウィルス感染症は、ジカウィルスが引き起こすもので、主な症状は、皮疹と発熱であるが、時に非可能性結膜炎や筋肉痛と関節痛を伴うことがある。ジカウィルスの感染ルートは比較的多样で、シマカに刺されて感染するほかに、母子感染 (子宮内感染と分娩時感染を含む)、血液感染と性感染もある。ジカウィルスの母子感染では、小頭症胎児の可能性もあり、現在特別な治療法やワクチンはない。もっともよい

予防方法は、保護措置を採ることであり、蚊に刺されないようにし、流行国から広東に戻った人は防蚊対策をすることが必要だ。4月に入り、蚊の活動期に入ると輸入性患者により当地で感染するリスクはますます増大する。

黄熱：

これまでに見つかった黄熱患者は全てアフリカからのもの

国家衛生計生委が、3月13日に北京における我が国初の輸入性黄熱患者発見を通報して以来、これまでに、北京、上海、福建などの地で相次いで多数の黄熱患者が見つかったが、是認がアフリカから帰国した輸入性患者だった。(合計で7人が見つっています)

黄熱は、黄熱ウィルスが引き起こす、蚊が媒介する急性感染症で、臨床症状は主に、発熱や黄疸、取穴などであり、数日すると回復するが、一部の患者には、高熱や嘔吐、黄疸、肝機能損傷、血液凝固障害、ショックが現れることもある。これまでのところ、黄熱は中南米とアフリカの熱帯地区で流行しているが、

2月、3月に多くの輸入性患者が報告されていたが、有効な予防方法は、防蚊対策以外に、ワクチン接種によっても可能だ：9月齢以上のグループで、もし、黄熱の発生している国家に居住や渡航する場合、黄熱のワクチンの接種を提案する。接種後7~10日で抗体ができ、これにより30~35年間保護される。

編集責任：huangly

<http://news.timedg.com/2016-04/12/20414097.shtml>

..... 以下は中国語原文

东莞现今年首例登革热输入病例 大岭山3个监测点蚊媒密度“爆表”

东莞时间网 news.timedg.com 2016-04-12 09:15:00 来源：东莞时间网

东莞时间网讯 嗡嗡嗡……天气变暖，雨水增多，越来越多的蚊子开始出来“作恶”，随之而来的便是蚊媒传染病登革热，今年还多了寨卡病毒病和黄热病。

省疾控部门昨天通报，截至4月10日，今年全省共报告境外输入登革热病例34例(含港澳台及外籍)，寨卡输入病例11例，东莞今年报告1例输入性登革热病例，尚无寨卡病毒病例和本地感染登革热病例。

市疾控部门提醒，随着气温逐渐回暖，蚊媒密度升高，由输入性寨卡、登革热病例引起的本地病例发生的风险逐渐加大。

昨天省疾控公布新一期伊蚊密度监测结果，东莞有3个监测点处于蚊媒高密度状态，登革热传播风险高，均位于大岭山。

今年现首例输入登革热病例

登革热和寨卡病毒病都是通过伊蚊叮咬传播的急性传染病，记者昨天从市疾控中心了解到，截至4月10日，今年我市尚无寨卡病毒病例和本地感染登革热病例报告，报告1例输入性登革热病例，该病例为一名马来西亚籍男性，感染地为马来西亚。

疫情发生后，市卫生计生局高度重视，统一部署，市疾控中心立即会同相关医疗机构及爱卫、社区等部门采取了隔离治疗病人，开展细致的流行病学调查，整治环境卫生，杀灭成蚊，清除蚊虫孳生地，开展宣传教育等一系列防控措施，疫情迅速得到有效控制，无续发病例，相关区域的布雷图指数达到蚊媒传染病防控要求，疫情已经平息。

目前蚊媒密度符合防控要求

根据广东省最近一期伊蚊密度监测结果，3月上半月全省大多数监测点蚊媒密度符合防控要求，蚊媒密度较低，但也存在部分地区蚊媒密度较高的现象，发现高密度监测点13个(占1.4%)、中密度监测点47个(占4.9%)。

记者看到，13个高密度监测点，东莞占了3个，分别位于东莞大岭山龙山街40号、大岭山龙山街三巷37号、大岭山龙山街四巷30号，布雷图指数均高达100。

昨日，市疾控中心表示，经过持续灭蚊后，目前我市在全市33个镇(街)开展的蚊媒密度监测结果显示，当前诱蚊诱卵指数和布雷图指数均≤5，符合蚊媒传染病的防控要求，蚊媒密度与去年同期基本持平。

五大措施防控登革热和寨卡病毒

东莞市疾控中心也提醒，随着气温升高，降水增多，蚊媒活动逐渐活跃，再加上我市居民普遍有养水生植物的习惯，非常有利于蚊子的繁殖，我市登革热和寨卡病毒病的防控压力将逐渐加大。

省疾控部门也提醒，由输入性寨卡、登革热病例引起的本地病例发生的风险逐渐加大。

市疾控中心介绍，目前东莞正积极部署登革热和寨卡病毒防控工作，一是加强与检验检疫、旅游等部门的协调合作和信息沟通；二是建立了寨卡病毒实验室检测的相关技术和方法，并做好了实验室技术和试剂储备；三是加强病例的排查和监测，做到早发现、早诊断、早隔离、早调查、早处置；四是加强蚊媒密度监测，监测范围已经覆盖了全市 33 个镇街（园区），并增加了监测频次；五是开展专业人员的技术培训。

目前我市已对各医疗卫生机构的公共卫生医生开展了 200 多人次的登革热和寨卡病毒病防制技术培训；此外还将加强开展登革热和寨卡病毒病防治知识宣传，开展风险评估，每季度都对登革热和寨卡病毒病疫情开展评估风险，从本月起每月开展专题风险评估，指导全市开展防控工作。

市疾控中心专家提醒，没有积水就没有蚊子，没有蚊子也就不会有登革热和寨卡病毒病，市民也要做好清积水和防蚊灭蚊工作。

清除积水

传播登革热的伊蚊最喜欢将卵产在干净的小水体内，经过约 10-12 天，便可发育成蚊飞离水体，大家一定要及时清除家里、房前屋后和天台、门楼的积水，翻盆倒罐，定时为水养植物换水洗根，清除蚊虫孳生地。

安装纱门/窗

在家中安装纱门/窗，阻止蚊子进入，是最简单便宜的物理防护方法。

户外穿浅色长袖衣裤

周末假期在户外郊游时或者在小区散步时，请穿浅色长袖衣裤，减少皮肤暴露面，防止蚊虫叮咬。注意在皮肤裸露部位涂抹含有效驱蚊成分的驱蚊剂。

这些蚊媒疾病正流行 市民们要留个心眼

登革热：

发生本地病例风险增大

登革热每年夏秋比较常见，是东莞小伙伴们的“老熟人”了，东莞近几年都曾有一些镇街出现本地暴发疫情。

登革热是通过伊蚊（俗称花斑蚊）叮咬而传播的一种虫媒传染病，主要症状为发热、剧烈头痛、眼眶痛、全身肌肉和关节酸痛、皮疹等，一般无并发症的病人通常预后良好，罕见重症与死亡病例，但重症患者可出现休克、出血甚至死亡。

寨卡病毒病：

输入病例引起本地感染风险加大

寨卡病毒病今年开始传入我省，2、3 月份曾通报多例输入性病例，4 月 1 日曾通报新增两例输入性病例，4 月 10 日通报又新增一例输入性寨卡病毒病病例。

寨卡病毒病是由寨卡病毒引起的，主要症状为皮疹、发热，可伴有非化脓性结膜炎、肌肉和关节痛。寨卡病毒病的传播途径比较多样，除了可以通过伊蚊叮咬传播外，还可以通过母婴传播（包括宫内感染和分娩时感染）、血源传播和性传播。孕妇感染寨卡病毒可能会导致胎儿发生小头畸形，目前尚没有特异性治疗办法或者疫苗。最佳预防方式就是采取保护措施，避免蚊子叮咬，从疫情发生国家回粤人员要做好防蚊措施，进入 4 月份蚊媒活动将逐渐呈现活跃期，由输入病例引起本地感染的风险也将加大。

黄热病：

目前查出多例黄热病例均由非洲输入

自 3 月 13 日国家卫生计生委通报在北京发现我国首例输入性黄热病病例以来，截至目前，我国境内已先后在北京、上海、福建等地查出多例黄热病患者，均为从非洲归国的输入性病例。

黄热病是一种由黄热病毒引起，经蚊子传播的急性传染病，临床主要表现为发热、黄疸、出血等，持续数日即可恢复，但有些患者有可能发生高热、呕吐、黄疸、肝功能损伤、凝血障碍、休克。目前，黄热病主要在中南美洲和非洲的热带地区流行，有效的预防方法除了防蚊，还可以接种疫苗：9 月龄及以上人群，如果要到发生黄热病的国家去居住、旅行，建议接种 1 针黄热病疫苗。接种后 7~10 天可产生抗体，保护期可达 30~35 年。

责任编辑：huangly